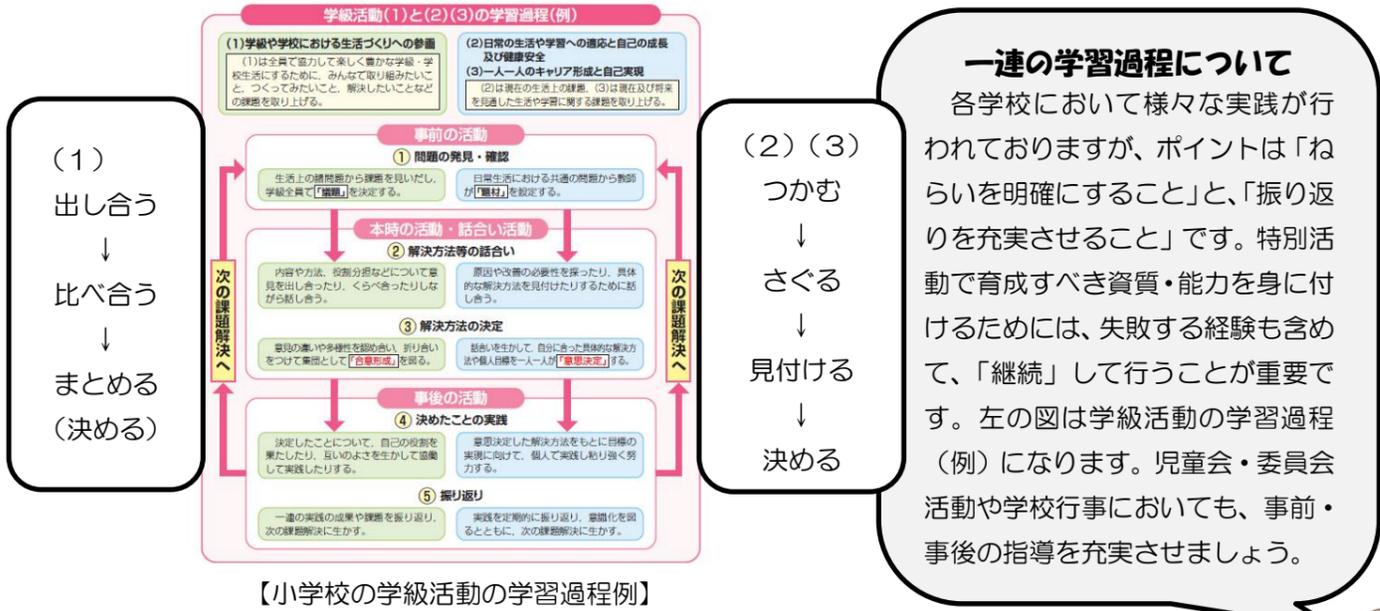


特別活動の学習過程を再考しよう

～事前の指導（活動）・本時（当日）・事後の指導（活動）～



【小学校の学級活動の学習過程例】

一連の学習過程について

各学校において様々な実践が行われておりますが、ポイントは「ねらいを明確にすること」と、「振り返りを充実させること」です。特別活動で育成すべき資質・能力を身に付けるためには、失敗する経験も含めて、「継続」して行うことが重要です。左の図は学級活動の学習過程(例)になります。児童会・委員会活動や学校行事においても、事前・事後の指導を充実させましょう。

指導案を作成しよう

各活動、学校行事の実践を充実させるためにも、本時（当日）の話し合い（実践）に加えて、事前の指導（活動）と事後の指導（活動）の充実が欠かせません。特に、事後の指導（活動）においては、「学んだことを振り返り、気付いたことや考えたことなどを記述して蓄積する、ポートフォリオ的な教材等」の活用が求められております。「活動あって学びなし」にならないようにするためにも、振り返りを積み重ね、自己の変容を意識しながら取り組ませることが大切です。そしてこのことは、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』の実現」に他なりません。

こうしたことから、一連の学習過程を踏まえた学習指導案を作成することは、各活動及び学校行事の充実につながります。指導案の作成を通して、特別活動の特質を正しく理解し、児童生徒に必要な資質・能力を確実に育みましょう。なお、指導案作成の際には、参考資料①をご活用ください。

コラム「進路指導とキャリア教育」

進路指導については、そのねらいはキャリア教育の目指すところとほぼ同じですが、「一人一人の発達を組織的・体系的に支援しようとする意識や、教育課程における各活動の関連性や体系性等が希薄であったりすることなどにより、子どもたちの意識の変容や必要な資質・能力の育成に結びついていないとの指摘」があります。各学校においては、これまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点から捉え直す必要が求められています。

参考資料

- ① みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編
(国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成30年12月) ※以下 国研
- ② 学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 (国研 平成28年3月)
- ③ 小学校キャリア教育の手引き (文部科学省 平成22年1月 改訂版平成23年5月)
- ④ 中学校キャリア教育の手引き (文部科学省 平成23年3月)
- ⑤ 現職教育資料 第471号 (栃木県教育委員会 平成29年10月4日)
- ⑥ 映像資料「JUMP」 Vol.10 (中学校)、Vol.18 (小学校)
※JUMPについては下都賀教育事務所学校支援課(0282-23-3422)までお問い合わせください。



「実践」から学びを深める特別活動！

～特別活動とキャリア教育の推進について～

下都賀教育事務所学校支援課 平成31(2019)年3月

小学校及び中学校学習指導要領（平成29年3月31日告示）の総則には、「児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ、各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る」ことが示されました。そこで、このリーフレットを通して、

- キャリア教育とその成果及び課題 p.1
- キャリア教育と特別活動の関連 p.2, p.3
- 特別活動の学習過程 p.4

について確認するとともに、キャリア教育の趣旨を踏まえた上で特別活動の実践を目指し、児童生徒の「自己実現」を図ろうとする態度等を育成していきましょう。



まずは、キャリア教育の定義を改めて確認し、現在の成果と課題について見ていきます。その上で特別活動との関係について整理しましょう。

キャリア教育…「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達を促す教育」のこと

キャリア発達…「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」となります。そのために、社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる「基礎的・汎用的能力※」の確実な育成や、社会・職業との関連を重視した実践的・体験的な活動の充実が求められています。

※基礎的・汎用的能力…「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」

キャリア教育の成果と課題 (中教審答申H28.12より一部改)

- キャリア教育の理念が浸透してきている。
- ▲職場体験活動をもってキャリア教育を行ったものとしているのではないか。
- ▲社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか。
- ▲職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点に乏しいのではないか。
- ▲将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか。



これまで以上に学校の教育活動全体でキャリア教育を行うという前提の下、自己のキャリアやこれまでの活動を振り返り、これからの学びや生き方を見直すことで、学校の教育活動全体の取組をキャリア形成につなげていくための中核的な時間として、特別活動が位置付けられています。

こうした経緯で、小学校段階から、キャリア教育の要となる特別活動の学級活動の内容に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の項目が新たに設けられたのですね。



キャリア教育と特別活動との関連

特別活動において、学級や学校の一員として役割を果たすことにより、自立して生きるために必要な能力や態度を育てます。また、自分のよさや可能性を生かして努力する活動を通して、自己実現につなげます（キャリア形成）。こうしたことから、特別活動が「キャリア教育の要」と言われています。学校の教育活動全体で取り組むキャリア教育と特別活動の関連を、キーワードとともに見てみましょう。



キャリア教育 基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

学級会などで身に付けた集団で問題を解決していく力は、各教科等の学習に生かされます。また、児童生徒が自主的によりよい生活や人間関係を築くことにより、学び合う学級の雰囲気がつくられ、学ぶ意欲が高まります。さらに、実践を通して学ぶ特別活動と、心を育てる道徳科を関連させることにより、自己の生き方についての考えを深めます。

特別活動と児童・生徒指導の関わりとして、

- ・所属する集団を自分たちの力によって円滑に運営すること
- ・集団生活の中でよりよい人間関係を築き、それぞれが個性や自己の能力を生かし、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さ、
- ・集団としての連帯意識を高め集団（社会）の形成者としてのよりよい態度や行動の在り方を学ぶことが挙げられます。

【各教科・領域等】

【学級経営】

【児童・生徒指導】

【家庭・地域社会】

学力向上

協働性

いじめの未然防止等

一人一人が大切にされる学級

自己指導能力の育成

道徳的实践

社会に開かれた教育課程

児童生徒が社会において自立して活躍するために、特別活動においては、

- ・自発的、自治的な活動等に地域の方の協力を得る活動の充実
- ・社会参画の意識の醸成や、地域や社会において自己実現を目指すことができるようにすること
- ・地域行事への参画や、地域や学校の特色を踏まえた学校行事の充実
- ・特別活動の目標を地域と共有した教育活動を展開し、地域の人的・物的資源を活用する活動の充実が求められています。

特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成

社会参画

自己実現

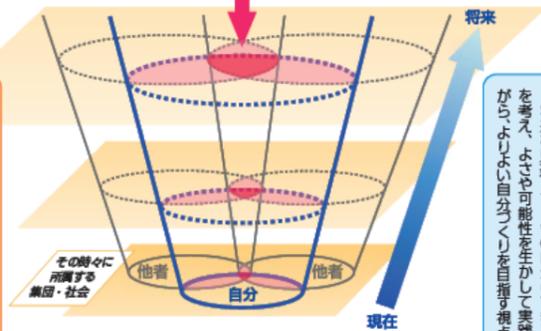
違いを認め合い、みんなと共々に生きていく力を育てます。

よりよい集団や社会をつくらうとする力を育てます。

なりたい自分に向けてがんばる力を育てます。

築きたい人間関係

「個と個」や「個と集団」の関わりの中で、互いのよさを生かし、協働して取り組み、よりよい人間関係を築こうとする視点です。



育成すべき資質・能力における三つの視点が関わり合って成長していくことを示したものです。

特別活動 三つの視点

人間関係形成

社会参画

自己実現

学級活動

学校行事

児童会・生徒会活動

クラブ活動

学級活動（3）で特定の実践を行うことのみがキャリア教育ではありません。学級活動（1）を基盤とした特別活動における多様な集団活動を通し、多様な他者と関わったり、学級・学校生活の中で役割を果たしたり、振り返りを次の課題解決に生かしたりすることで、児童生徒は自己理解を深め、よりよい自分づくりについて考えることができるようになります。



特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

主体的な学び

学校や学級の実態、自己の現状に即して自ら課題を見だし、解決方法を実践したり振り返ったりしながら、生活をよりよくしようとしていくこと。

対話的な学び

生活上の課題を解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする話し合いの中で様々な意見に触れ、考えを広げたり多面的・多角的に考えたりすること。

深い学び

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら、問題の発見、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を総合的に生かし、知識・技能などを集団及び自己の問題の解決に活用していくこと。」